

筑波大学新聞

第361号

編集責任 筑波大学新聞 編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699 E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp 月刊

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

注目記事

- 女性教員 新制度で増加を目指す
- 芸専洋画領域 オンライン展示
- 男女バスケット インカレで好成績
- 食料品20ト 学生に無償配布
- 新型コロナウイルス 学生団体に大打撃

11 10 8 5 2

特集

東日本大震災から10年 筑波大はいま 6・7

ミニ特集

退職教員4人に聞く 教員人生の軌跡 3

ゲノム編集トマト 来冬にも流通へ

江面浩教授が開発 血圧抑制に期待



ゲノム編集技術でGABAを高めたトマト=サナテックシード提供

筑波大発ベンチャーのサナテックシード(東京都港区)は昨年12月11日、ゲノム編集技術を用いて品種改良したトマトを「ゲノム編集技術応用食品」として厚生労働省に届け出て受理された。血圧の上昇を抑えることされるアミノ酸「GABA」が「γ-アミノ酪酸」の含有量を増やしてある。ゲノム編集食品の届け出と受理はいずれも国内初。トマトが店頭に並ぶのは早ければ2022年冬になる見通しだ。

(大和祐菜=障害科学類2年、工藤和哉=生物資源学類1年、2面に関連記事)

このトマトは、同社の取締役最高技術責任者を務める江面浩教授(生環系)が開発した「シリアンルーシュ・ハイギャバ」。GABAの蓄積量が通常の約5倍あり、ミニトマトの1.2倍の大きさの実を毎日1、2個食べただけで、血圧抑制効果が期待できるという。

ゲノム編集は、生物が持つ全遺伝情報(ゲノム)の中から特定の場所を狙って改変する技術だ。狙った遺伝子のDNA配列を切断して働かなくしたり、新たに遺伝子を導入したりすることが可能。

今回のトマトは、ノーベル化学賞を昨年受賞した「クリスパー・キャス9」というゲノム編集技術を使い、GABA合成に関わる酵素の遺伝子の一部を改変し、含有量を高めることに成功した。

ゲノム編集食品を巡っては2019年10月に国への届け出制度の運用が開始された。

外部遺伝子が導入されないゲノム編集食品は「従来の品種改良と区別がつかない(厚労省)として、遺伝子組み換え食品のような

安全性審査は行われず、「シリアンルーシュ・ハイギャバ」もこれに相当する。ただし、新たな技術であることから、事業者が国に任意で安全性や環境への影響に関する情報を提供することがルール化された。

一方、外部遺伝子を導入する場合は、従来の遺伝子組み換え食品と同様の安全性審査が課せられる。

サナテック社は届け出に先立ち、国に対して事前相談を行っていた。昨年12月11日に開かれた厚労省の専門家会議で、同社のトマトは遺伝子組み換え食品と同じ

安全性審査は必要ないと判断された。

同社はインターネットで募った希望者に対し、今年5〜6月頃にトマトの苗を無償配布する。家庭菜園で栽培し、味わってもらおうと、ゲノム編集食品への理解を深めてもらう狙いが込められている。

佐藤副学長(学生担当)は1月18日、「茨城県独自の緊急事態宣言発令に伴う課外活動の自粛について(要請)」を発表した。自粛要請の対象は、①一部例外を除く全ての団体活動②学生団体が主催する合宿など(特例許可を受けた活動も含む)③学外者との接触を伴う活動④3種類の活動だ。

学生生活課の担当者は「卒業公演も②に該当する。今は卒業公演のシブズで、開催したい気持ちには十分に分かるが、感染防止に協力してほしい」と呼び掛けている。

課外活動「特例許可」も対象に 自粛要請 一層強化

今回、自粛要請の例外となる事例は▽日程変更が難しい大会で、感染防止策が適切に講じられたもの▽団体運営上延期できない引継ぎ作業などの活動(学内施設に限る)――などだ。

筑波大は昨年10月、約半年ぶりに団体活動を再開したが、12月には再び全面的な自粛要請(一部の例外を除く)に踏み切った。その時点では、特例許可を受けている学生主催のイベントは自粛要請の対象外だったが(後藤佳博=社会学類3年、北川瑠菜、11面に関連記事)

ある。また、今年秋ごろには生産者への種子販売を開始する計画だという。

江面教授は「今まで培ってきたものが世の中に出ていくことはうれしい。ゲノム編集食品に関する情報発信に取り組みとともに、新たな品種改良を進めたい」と話している。

筑波大公式サイトリニューアル ニュースサイト新設 スマホ対応も

筑波大の公式サイト(https://www.tsukuba.ac.jp)が昨年12月22日にリニューアルされた。大学の発信力を強化するため、研究トピックやニュース、イベント情報などを紹介するニュースサイト「TSUKUBA JOURNAL」を新設。また、日本語ページと英語ページを統一した。パソコンやタブレット、スマートフォンなど利用者の環境に応じ、最適なレイアウトが表示可能になった。

(田所涼=教育学類3年)

筑波大学後援会、ラーメン店でアルバイトを始めた。人手不足でホールと厨房を兼ねて働き始め、ミスすると激しく怒られた。コロナ禍で友人もできず、一人で悩んでいた。SNSで知り合った同級生から、「それはよくない」と助言をされ、やるべきことを決めたのは5月のことだった。迎えた夏、同じ学類の同級生が、食事をしようとしてSNSで呼びかけていた。大学近くのインドカレー屋に、10人ほどが集まった。ほとんどが初対面。食事の後はマスクを着けての会話だったが、オンライン授業などで、みな似た悩みを抱いていると知った。呼びかけがなかったら、今より孤独感が深かったと話している。

たに違いない。ニッセイ基礎研究所が昨年6月に実施したインターネット調査では、10代の大学生の約8割が「会う、出かける等の友人との交流」が減少したと回答する。一方で、「メールやLINE、電話等の友人との交流」が増加したとの回答も5割近くあった。インターネットやスマートフォンが普及してコミュニケーション能力を損なうという主張もある。自分自身、対面の方が相手に信頼感を持って接することができる。だが、コロナ禍の今、対面のコミュニケーションが制約されることは、致しかたない。今私たちに必要なのは、対面、非対面にかかわらず、人と人とのつながりを作ろうとする努力を続けることではないか。

詐欺メール5000人被害

昨年12月、学生や教職員に 過去10年で最大

昨年12月20日午前7時半から21日午前11時にかけて、学外から2000人以上の学生や教職員のメールアドレスにフィッシング(詐欺)メールが送付された。学術情報メディアセンターの調査で、500人以上が不正なウェブサイトでパスワードを入力し、一部のアカウントはスパムメールの送信に利用される2次被害に遭ったことが分かった。同センターによると、筑波大でのフィッシングメール被害としては過去10年で最大だという。

(及川千翔=人文学類1年、北川瑠菜=比較文化学類2年、11面に関連記事)

フィッシングメールの差出人は筑波大の実在しない組織を名乗る学外のアドレスだった。「メールボックス閉鎖リクエスト」を受信したとかなるメールを送りつけ、キャンセルするため学外のサイトにアクセス

するよう誘導していた。不正に利用された学内アカウントから送られたメールも同様の内容だった。

同センターによると、フィッシングメールは筑波大の教職員や学生のアカウントを不正に取得するために送られており、筑波大のメールアドレスを利用して学外にスパムメールを大量送信することが最終的な目的だと考えられる。

フィッシングメールが同センターの教職員にも届いた

たほか、21日の午前10時過ぎからメールに関する問い合わせが複数寄せられ、事態が明らかになった。

同センターは同日、学内からメールに添付されたURLへのアクセスを遮断し、全ての学生や教職員に注意喚起メールを送った。また、注意喚起文を同センターと全学計算機システムとウェブサイトを連携したアカウントを検出し、一時停止した上で、利用者に連絡した。連絡を受けた利用者はパスワードを変更した。



スマホ表示に対応した筑波大公式サイト(1月27日、本紙編集室で) = 山田優芽撮影

一方、在学生向けの情報発信は、履修や成績の管理システム「TWIN」に一元化する。

広報戦略室長の山科直子教授は「従来の利用者は、しばらく戸惑う部分もあるかもしれない。しかし、使いやすく、インパクトのあるデザインにした。筑波大の知名度向上や志望者増加につなげたい」と話した。

リニューアルが計画されたのは2018年。従来のサイトは13年から運用されていたが、大学が発信していた情報が、研究トピックやニュース、イベント情報などをまとめた紹介する情報源が不足していた。また、ウェブページの構造が複雑で、更新作業が各項目のトップページから行われていた。ユーザーの画面に手間がかかっていた。リニューアルされたサイトでは、こうした課題が解消された。大学案内や「入試情報」「研究・産学連携」など各項目のトップページで、ユーザーが検索したい情報を簡単に発見できるようになった。

筑波大への入学を希望する受験生への情報提供も強化された。フロントページで入試新着情報の随時表示を行い、学群と大学院の各入試サイトへのリンクをたどることができるようになった。

には、学生数やノーベル賞受賞者数など各項目に関連する情報が表示される。フロントページには「H EADLINE」として筑波大での最新の研究成果が表示されるようになった。合わせてそれらをまとめたページ「TSUKUBA JOURNAL」へのリンクも張られている。

筑波大への入学を希望する受験生への情報提供も強化された。フロントページで入試新着情報の随時表示を行い、学群と大学院の各入試サイトへのリンクをたどることができるようになった。

ゲノム編集技術

短期間で品種改良可能に 消費者の理解不可欠

【1面参照】ゲノム編集トマトの商用化に向け、筑波大発ベンチャーのサナテックが国に届け出を行った。早ければ来年冬にも市場流通が始まる。短期間で品種改良を可能とするゲノム編集は、地球の人口増加や気候変動に対応する新品種の開発などに貢献する技術として、大きな注目を集めている。一方で、普及を進めるには、消費者の理解が欠かせない。

認知度が普及の鍵

サナテック社の竹下達夫代表取締役会長は、届け出後の記者会見で「情報の透明性を確保し、消費者の知権を保障する必要がある」と話した。その背景には、ゲノム編集食品に対する消費者の認知度が、まだ低いことがある。



ゲノム編集トマトを販売する際のラベル=サナテックシード提供

東京大医科学研究所の研究チームが2018年5月6日にインターネット上で実施した意識調査では、回答した約1万7000人のうち、ゲノム編集技術について「全く知らなかった」と答えた人が6割近くいた。一方で、ゲノム編集された農作物を「食べたくない」と答えた人は43%、畜産物では53.3%いた。

表示で差別化

また、北海道が19年秋に行った道民意識調査でも、回答者の21.7%が、ゲノム編集技術を利用した農作物などの研究開発や食品の流通について「不安に思う」と答えている。

食品の宅配事業を行う生活クラブ事業連合生活協同組合連合会(東京都新宿区)は19年6月、ゲノム編集食品を取り扱わないと決定し、

「多角的かつ長期的なリスクに関する情報が十分に公開されていない」としている。同社はゲノム編集トマトの苗を市民に無償配布し、栽培してもらう方針だ。竹下会長は「家庭菜園をしている人に自ら栽培し、消費してもらいたい。栽培の状況や食への感想をモニタリングし発信することで、透明性を高め、人々の理解を深めたい」と話す。

ゲノム編集技術を使うと、狙った遺伝子をピンポイントで壊したり、ゲノムの狙った場所に遺伝子を導入したりすることができると答えている。

遺伝子のピンポイント変異は、放射線を浴びることなどで自然界でも普通に起きている。放射線の人工照射で作物に突然変異を起し、その中から有用種を選

択することで、品種改良に利用されてきた。ただし、新品種の開発には相当な時間と努力がかかる。一方、ゲノム編集技術を使えば、効率よく突然変異を起せるので、開発時間を短縮できる。

19年10月に運用を開始したゲノム編集食品の届け出制度では、遺伝子を導入するゲノム編集食品は食品衛生法に基づく安全性審査の対象とする一方、遺伝子を導入しないゲノム編集食品は、遺伝子組み換え食品のような安全性審査は不要とした。ただし、届け出の事前相談の段階で安全性や環境影響に関する情報の提供を求めている。

今回のトマトは安全性審査の対象外で、販売の際の表示も不要だ。だが、サナテック社は、種子や苗を販売する際にゲノム編集技術を用いた品種だと明記することにしている。収穫したトマトにゲノム編集食品であると表示することに同意した生産者にも「大切に」と話した。

エジプト文明の遺産修復

読売国際協力賞 谷口准教授も参加

第27回読売国際協力賞に国際協力機構(JICA)の「大エジプト博物館合同修復プロジェクト」チームが選ばれた。プロジェクトでは大エジプト博物館の修復作業を進めている。文化財科学を研究する筑波大の谷口准教授(人社会系)は、壁画修復のチームリーダーを務めており、受賞について「多くの専門家の協力と努力が形になって非常にうれしい」と話している。(小菊日怜 社会学類1年、北川瑠璃)



壁画を修復する谷口准教授(左)

た、赤外線や紫外線などを使って撮影するマルチスペクトルイメージングという手法を使うことで、痕の絵がエジプシャンブルー(エジプト青)と呼ばれる最古の合成青色顔料で彩色されていることが分かった。修復作業は「次の世代が修復する時の妨げにならないことが条件」(谷口准教授)で、全工程で将来、物理的に取り除ける材料を使った。作業は完了間近だが、新型コロナウイルスの影響で現在は停滞しており、今年中に開館予定。

研究者の卵支援 基金創設へ

筑波大の「研究者の卵サポート基金」が昨年12月16日に文部科学省から承認された。基金は、学生や不安定な雇用状態にある研究者(ポストドクター)の支援が目的で、研究活動や学会への参加、研究者同士の交流などに必要な費用を負担する事業に使われる。基金の設立は、今年度の税制改正に基づく。租税特

女性教員割合いまだ少なく 増加向け新たな制度も

増加向け新たな制度も

学校基本調査によると、2020年度の日本の大学教員に占める女性の割合は25.9%。国際的に見ると、日本は女性教員の割合が少なく、筑波大も例外ではない。20年度は19.2%で、国立大学全体(18.2%)より多いものの、日本全体は下回る。女性教員を増やすことは、研究者を志す女子学生らの「ロールモデル(目標像)」となるほか、研究者の多様性を生むなど、多くの利点がある。国立大学協会が25年度までに女性教員比率を国立大学全体で24%以上を目標とする中、筑波大の対応策はどうなっているのか。現状を追った。(西村大祐 人文学類3年、後藤佳怜)

来年度までに20%目標

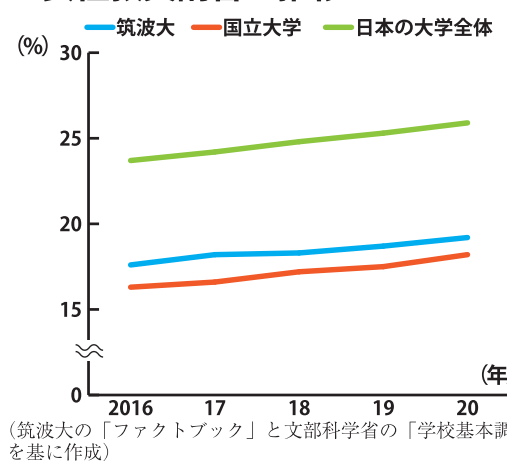
筑波大の女性教員の割合は16年度の17.6%(GEMIC)から今年度は19.2%(GEMIC)に増加している。単純比較はできないが、日本が加盟する経路協力の開発機構(OECD)の「Education at a Glance 2020」によれば、加盟国の高等教育機関(学士・修士・博士課程)における女性教員割合の平均は42.7%(18年)で、その差は大きい。筑波大の今年度の女性

教員割合を教員が所属する「系」ごとに見ると、最高は人間系の35.3%で、28.6%の人文社会系が続く。筑波大は、21年度までに女性教員比率を20%にする目標を16年度に掲げた。同時に、若手・女性・外国人のいずれか一つ以上に該当する教員の採用を促進する制度を設けた。今年度までに23人が採用され、そのうち8人が女性だった。

「ロールモデル」学生に示す

女性割合が最も少ない数理物質系の齊藤一弥系長

女性教員割合の推移 (過去5年間)



(筑波大の「ファクトブック」と文部科学省の「学校基本調査」を基に作成)

は「理工学分野は女性研究者が少なく、候補者が不足している」と話す。今年度の同系の女性教員割合は5.5%で16年度から0.9%増にとどまる。

最も女性割合が高い人間系の小川園子系長は、世界的に見ても女性が比較的多い研究分野だと前置きした上で、「系長などの管理職に女性が就くことや女性の教授が多いことで、女子学生や若手の女性教員に研究者人生のロールモデルを示してきた」と話した。

筑波大は19年度から、系や学群などの組織の役割に「特別補佐」を加えた。組織の長を補佐し、将来的に組織を先導することが期待される人材という位置づけだ。長が男性なら女性、女性なら男性の任用を推奨しており、20年度は女性23人、男性2人が就任した。

数物系では、系長特別補佐を中心に、若手教員らに女性の働きやすさや女性研究者の育成などを議論する機会が生まれた。女性の割合が1割を超えれば、系の雰囲気も変わってくる。女性をできるだけ増やしていきたい」と話した。

初の共通テスト実施 感染対策講じ

大学入試センター試験に代わる初の大学入学共通テストの第1日程が、1月16、17日に行われ、筑波大では5716人が受験した。1日目は地理歴史・公民「国語」「外国語」が、2日目は「理科」と「数学」が実施された。新型コロナウイルス感染症対策として、会場ではマスクの着用を義務付け、休憩時間や昼食時も会話や接触

を極力避けるよう求めた。試験場の入り口や各教室には消毒液を設置した。また、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者で、無症状の者は別室での受験とし、席の間隔も2倍以上空けた。筑波大では同30、31日に第2日程の試験も実施。昨年の緊急事態宣言に伴う休校による学習の遅れに配慮したもので、体調不良などで第1日程を受験できなかった受験生にとっては追試験の役割も果たす。(三橋美音 教育学類1年、12月II比較文化学類1年)

り、終了時期は未定だ。谷口准教授は「保存修復は、時間をかけて信頼関係を築き、両国合同でやり遂げる事業だ。だからこそ、博物館が多くの日本人にも興味を持ってもらえる場所になってほしい」と話した。

大エジプト博物館は修復作業は「次の世代が修復する時の妨げにならないことが条件」(谷口准教授)で、全工程で将来、物理的に取り除ける材料を使った。作業は完了間近だが、新型コロナウイルスの影響で現在は停滞しており、今年中に開館予定。

筑波大の「研究者の卵サポート基金」が昨年12月16日に文部科学省から承認された。基金は、学生や不安定な雇用状態にある研究者(ポストドクター)の支援が目的で、研究活動や学会への参加、研究者同士の交流などに必要な費用を負担する事業に使われる。基金の設立は、今年度の税制改正に基づく。租税特

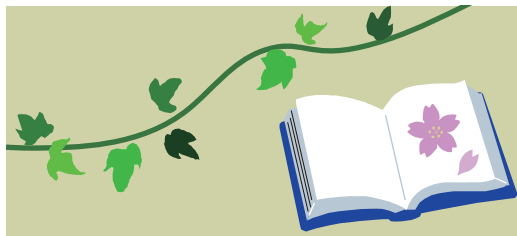
別措置法の改正で、個人が一定要件を満たした国立大学法人に、学生やポストドクターの支援に充てられる寄付をした場合、従来の所得控除に加え、税額控除が選択できるようになった。寄付者の税負担が軽減されるため、寄付が集めやすくなるが期待されている。

筑波大では現在、研究推進部と事業開発推進室が寄付の受付方法や研究者からの申請方法、支援期間などの検討を進めている。

「博士の学位を取得しても就職に結びつかず、不安定な生活を続ける研究者が多い。経済状況により、研究をきらめざるを得ない人もいる。今回の基金を活用し、優秀な人材の育成を進めたい」と話した。

ポストドクターは主に博士課程修了後に任期付きで研究に従事する研究者。文科省によると国内のポストドクター数は1万5910人(2015年度)。今回の税制改正で、各大学でポストドクター支援基金の設立が進んでいる。(山田優芽 II比較文化学類1年)

退職教員4人に聞く 教員人生の軌跡



日本の総合大学の中でも幅広い学問分野を有する筑波大。今春も研究者として教育者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。その中から4人の教授にこれまでの軌跡とこれからの話を聞いた。(天野隼太、山田優芽、北川瑠菜、比較文学類、小栗あおい) 社会学類 写真は幸て本人提供)

与謝蕪村の俳諧を研究

江戸時代中期の俳人、与謝蕪村の俳諧や同時代の俳壇の研究を専門としてきた。物心ついたころから本の世界に没入するのが好きで、家にある本を片っ端から読んで、国語の教科書が配られると、それも1日で読み終えてしまうほどだった。日本文学を勉強したいと考え、優れた教員がいるお茶の水女子大の教育学部に進学した。

大学時代はお気に入りの詩をノートに写して友人と交換したり、自主的に古典文学の勉強会をしたりした。当時を「楽しくて仕方

なかつた」と振り返る。大学4年の時、「蕪村自筆句帳」に出会う。国文学者の尾形ゆづり、東京教育大教授(当時、故人)が、屏風や掛け軸に張られて散逸していた蕪村の俳諧が、実は一つの句帳に収録されていたものだったことを明らかにした研究書だ。これを機に近代的な蕪村像が見え、蕪村と江戸の俳諧文化の関



清登典子 教授 (人文社会系・日本文学)

また、同僚の女性教員と女性教員懇話会を立ち上げ、約10年にわたって旧姓使用や大学内の保育所の必要性などについて議論し、大学に要望を出した。「他分野の女性教員と出会う、協力できたことは大きな財産となった」と話す。退職後は、6年前に発見

山村史研究 土台を築く

専門は農林業史。山間地での農林業の歴史研究や国有林の史料整理などに取り組んできた。埼玉県名栗村(現・埼玉県飯能市)出身。入間川の上流に位置し、江戸時代以来林業が盛んだった。物心ついた頃から林業が身近

で、中高生の長期休みには村の山仕事を手伝った。だが、高度経済成長期に国産材の供給不足を補うため、外材の輸入が拡大し、日本の林業は衰退した。村ではスギやヒノキが伐採されずに放置された。「新しい時代に合わせて林業を再興させるにはどうすればよいか」と考えた。独学で歴史も学んだ。



加藤 衛 教授 (生命環境系・農林業史)

大学院進学後からは、古文書調査を基盤に検地制度をひもといた。特に、武蔵国西部山間地域の1660年代検地において、山地の多くが検地されていることに着目した。山

古文書から検地制度ひもとく

地も、広く百姓の保有地となっており、その利用も焼き畑から造林地へと転換し、代に至る簿冊が置かれてお

それらの営林局の書庫には、数千点の近世から現代に至る簿冊が置かれてお

林業史にまつわる研究をする徳川林政史研究所と2001年から共同で調査し、史料の目録を作成していった。自身の研究チームは秋田、青森の旧営林局を担当した。

退職後は、学生時代から続けている飯能市域などの古文書整理に協力する。研究を始めた1980年代は林業の古文書を取り上げた研究は数少なく、史料も整理しきれなかった。史料の発掘・目録作成によって整理も進み、林業・山村史研究の土台が築けたと

女性教員の処遇の向上も

された蕪村の未発表句が212句掲載されている「夜半蕪村句集」を基に、「蕪村自筆句集」の欠落箇所を復元を進める予定だ。これまでの教員生活

資料と出会った時や、作品の新しい解釈の可能性を見つけた時はとてもうれしかった。夜中にひらめいた時、資料を読み直して調べることが増えていらないほど楽しかった」と話す。

高きを見よ、 桐の花 取材に際し、本紙に自作の句を寄せた。桐の花は高い所で咲く、

ソーシャルスキル 普及に尽力

ソーシャルスキル(社会技能)との出会いが、研究者生活の転機になった。社会の中で人と交わり、共に生活していくために必要な能力のことで、英国では小中学校でこうした能力を育成する授業もある。

ちよと、広島大学院を修了し、宮崎大に助手として着任した直後のこと。共同研究者から紹介され、その考え方に魅了された。例えば、その場の雰囲気を知る、自分の考えを上手に伝える、などもソーシャルスキルがあればこそ、その能力を身に付けて、日々の

行動を改善することによって、周囲の人々の対応も変化し、人間関係がより良くなる。それを感じ取ること、性格も改善される。こうした考え方は、うつ病などの精神疾患の改善や非行少年の更生など、幅広い心の問題に対応できる。大学院では、相手の厚意に対してお返しをしなくてはならないと感じる「心の負債」について研究した。だが、人の行動からデータを収集し数値を数式に当てはめて分析する手法は、人間を扱っているという実感が持てなかったという。

1989年にはソーシャルスキルを高めるトレーニングの実践方法を学ぶために、テレビ番組の監修

人間関係の改善方法探る

スポーツと人の関わりを探る

スポーツと人や社会との関わりなどを研究するスポーツ人類学が専門で、オリンピック教育などの社会貢献活動にも取り組んできた。2012年から6年間

東京都出身。保健体育の教員になりたかったと述べている。高校生の時、教員から筑波大を勧められ、体育専門学群へ入学した。

筑波大では水泳部に在籍した。同部の起源を調べてみると、東京高等師範学校(筑波大の前身)の校長を23年間務めた嘉納治五郎(1860~1938)が創設(当時)は水泳部、その後、柔道の創設者として知ら



真田久 教授 (体育系・スポーツ人類学)

嘉納は、日本の学校教員の充実や体育・スポーツの発展を主導した。嘉納が考案した水泳実習では、学生を海浜に2週間宿泊させ、遠泳や水球を行った。自然の中で集団生活する上で大事な協調性やリーダーシップを養う狙いがあった。横泳ぎなど「高レベルでも愛された人柄に引かれ、嘉納の研究にのめり込むことになった。

嘉納は日本人初の国際オリンピック委員会(IOC)委員にも選ばれ、日本の五輪参加に大きく貢献した。彼が多様な実績やヨーロッパでも愛された人柄に引かれ、嘉納の研究にのめり込むことになった。

嘉納治五郎の人物像追って

東西冷戦下の五輪も研究対象とした。国力誇示に利用され、ドーピングも相次いでいたことを知り、近代五輪の原点である古代オリンピックの理念やその成り立ちの研究に向かうことになった。

福岡教育大で教員生活のスタートを切った後、96年に筑波大に戻った。ギリシャの図書館や考古学研究所で集めたギリシア語の資料を約20年かけて翻訳。近

代五輪以前にギリシアでは独自の古代オリンピックの復興版が行われていたことを明らかにした。また、嘉納の研究も継続した。講道館や大日本体育協会が発行した当時の雑誌などを読み込み、関東大震災後のスポーツによる社会

復興や異人差別反対、女子の体育奨励などに取り組んだ姿を浮かび上がらせた。

「文献を読み込むことでその奥に潜む過去の人たちの生の声を聞くことができる」と振り返る。

スポーツ庁の委託事業の責任者として各地の小中学校などに五輪の歴史や理念を伝える、嘉納も主人公となったNHKの大河ドラマ「いだてん」では、スポーツ考証を担当した。

学生に対しては「嘉納先生が柔道の中で身につけた成功のもととなった『逆らわずして勝つ』という理念は、日本人が忘れてはいけないアイデンティティだ」と呼び掛けた。

退職後は「要請があるなら五輪・パラリンピック事業に携わり、社会貢献したい」と意欲を見せた。

相川 充 教授 (人間系・社会心理学)



「心の負債」を解消するために、感謝を表す技術を日本人はどう習得するのか。技術の習得という点で、ソーシャルスキル研究の延長線上にある研究ともな

学生には「ポジティブに『未来を想い』ながら、現在のこと、一生懸命取り組んでほしい」と、筑波大のブランドスローガン「IMAGINE THE FUTURE」と絡めて呼び掛けた。

退職後は研究から身を引き、残りの人生を楽しく暮らすことが目標だという。

記者の声



西村大祐

オンライン授業 教育の柱として活用を 教員への支援は不可欠

新型コロナウイルスが世界で猛威を振るい始めてから約1年が経った。大学ですっかり当たり前となったのがオンライン授業だ。コロナ禍の収束が見通せない中、大学教育を支える柱としての役割が求められている。

筑波大は、4月1日に授業をオンラインで実施すると発表して以来、担当教員は試行錯誤の連続だった。学生からは、長時間画面を見続けることによる健康被害や課題量の多さなど、体の約3割にやまっていた。4月に入学する新入生も、現1年生と同様に、対面での授業経験は少ないままとなるだろう。対面授業の増加を求める声もあるが、筑波大には県境をまたいで通学する学生も多い。当面、オンラインが大学教育の軸

となることもやむを得ない。その中で重要になってくるのがオンライン授業の質向上だ。学内では現在、オンラインと対面とを大学教育でどのように併用していくべきか議論が進んでいる。オンライン授業を対面授業の代替と位置づけるのではなく、オンライン授業の新たな可能性を広げる上でも、必要な機器やソフトウェアの購入助成などの経済的支援を教員に行う必要がある。

また、併用授業を教員1人で運営するのは難しい。カヌラの切り替えやトラブル対応などが必要だからだ。TAの活用など人的支援も検討すべきだ。

清水論議委員長(教育学部3年)は

筑波時評

2020年12月後半から新型コロナウイルス感染者数が最多を更新する中で21年が始まった。1月8日以降再度緊急事態宣言が出され始めたが、感染の収束はまだ全く見通せていない。

その中で政府の専門家会議などからは、若い世代に危機感が足りない、若者の行動自粛が必要という意見が繰り返し聞かれる。確かに政府のGo Toキャンペーンを受けて旅行や飲食に出かけた人や、感染しても大きな注目を集めていない。

特に新型コロナウイルスによる学生アルバイトへの経済的影響は大きい。レストラン・居酒屋・カフェなどの飲食店をはじめ、小売業、サービス業、イベント業など、営業自粛や時間短縮を余儀なくされた業種で多くの学生アルバイトが働いていたからである。私の周りでも、店は開いているがシフトが大きく減らされた、店がしばらく閉まってその間仕事も収入もなくなった、長く勤めていた店が完全に閉店した、また廃業により職場そのものがなくなったという話を聞いた。

コンビニやスーパーなど従来通りの所もあるが、アルバイト

学生アルバイト コロナ禍が生活に打撃 待遇の改善が必要だ

拡大によって経済的苦境に置かれていることについては、あまり大きな注目を集めていない。

ある。私の周りでも、店は開いているがシフトが大きく減らされた、店がしばらく閉まってその間仕事も収入もなくなった、長く勤めていた店が完全に閉店した、また廃業により職場そのものがなくなったという話を聞いた。

コンビニやスーパーなど従来通りの所もあるが、アルバイト

の全体数は大きく減り、労働力調査によると20年4月には前年比ほぼ半数にまで落ち込んだ。これは夏から秋に1割減まで回復したが、冬の感染拡大で再度の縮小が予想される。非正規雇用の数は雇止め・解雇で100万人減少し、休業者は

がたい。アルバイト収入が生活に必要不可欠である場合、事態は深刻である。

現在飲食業において学生アルバイトは職場に必要不可欠な人材となっている。少し前なら正社員が行っていたレジ・金庫管理、商品発注、店舗の施設なども今やパート・アルバイトが行う場合が多い。低い時給で昇給がほぼ無くて、やりがいや責任を感じて長く働く学生もいる。こうした学生アルバイトの存在に構造的に多くを依存している業界だからこそ、新型コロナウイルスによる苦境が学生の生活への直接的打撃という形で発現しているのだから。

筑波大でも食事補助券の支給、教職員や地元企業などから学生への食事支援事業が行われた。当面は収入減による生活困窮に対するための社会的仕組みづくりが、長期的には学生アルバイトの待遇の全般的改善が求められる。



田中 洋子 教授 (経済政策)

人文社会系・教授。東京大学大学院経済学研究所修了。博士(経済学)。筑波大社会科学系講師などを経て、2008年より現職。

反射鏡

冬になると思い出す曲

コロナ禍の中、今冬は例年にも増して寒さが身に染みる。冷たい空気や心も温めてくれる存在といえば、やはり音楽ではないか。クリスマスや受験など、この時期ならではのイベントも多い。筑波大生が冬に思い出す曲は何か。オンライン会議システムを利用して聞いた。(及川千翔||人文科学類1年、山田優芽||比較文化学類1年、北川瑠菜||同2年、小栗あおい、車谷郁実||教育学類1年、小菊日輪媛、半田実乃理||社会学類1年、三橋美音||教育学類1年)

【比文2年・女性】
母親が韓国人で、10歳まで韓国で母、兄と二歳上を暮らした。父は日本で働き、年に数回、韓国に戻ってき「デニス・イブ・ミー」。レギュラーにならなかった仲

【国際1年・女性】
バレエ部所属に倒れ、自身も交通事故に遭った。その時に知ったのが井上陽水の「氷の世界」だ。ひずみのあるギター音が「誰か傷つけないな」なト・ショーマンの主題歌に投げやりな歌詞に共感し、極寒の冬という鮮烈な印象を受けた。

【国際1年・男性】
くろりの「はらの花」。センター試験直前によく聴いていた。追い込んで勉強している時に、「安心な僕らは旅に出ようぜ」という、寄り添ってくれる歌詞が心に染みわたった。今も冬の曇った空を見ると、あの落ち着いたメロディーを思い出す。

【資源3年・男性】
中学3年の英語の授業で、先生が季節にあった音楽を流してくれていた。12月、まだ部屋が暖まりきっていない1時間目の教室にワムーの「ラスト・クリスマス」

【心理1年・女性】
高校3年の冬、母親が運転する車に乗って模試の会場に向かう途中に聴いた中



イラスト=後藤佳純(社会学類3年)

【筑波発!】
キャンパス ことば

【解説】
筑波大の筑波キャンパスは、南北5時、東西1時にわたる。このため、教室移動もしばしば大規模なものになる。

例えば、春日エリアの教

【国際1年・男性】
「人権」(名) 自転車のこと。筑波大学の敷地は広くて移動の際は自転車が必要であり、「自転車は人権と同じくらい大切なものだ」という連想から、自転車を「人権」と呼ぶことがある。

分の休憩時間内にしなければならない。移動手段として徒歩を選択することは現実的ではない。そこで、多くの学生が教室移動に自転車を使用する。

そのため、筑波キャンパスでは駐輪場を自転車がいっぱい埋まっている。道が細くスロープになっている大学会館前では自転車で渋滞が起きるなど、キャンパスのいたるところで自転車が関係する風景を目にする。

また、通学や学内にとどまらず、近隣施設への移動手段としても自転車が利用される。

このような背景から、自



コロナ禍で駐輪場に並ぶ「人権」も減った(1月22日、第二エリアで) =西村大祐撮影

1920年の創刊以来、東京大学の「声」を発信し続ける

東京大学新聞

定期購読のお申込は、お電話もしくはメールアドレスまでご連絡ください。

購読料金(送料・税込)
1年間...7,400円
2年間...14,400円

公益財団法人 東京大学新聞社
〒113-8691 東京都文京区本郷7-3-1 東大構内
電話 03(381)13506 E-mail post@utnp.org
ウェブサイト https://www.todaishimbun.org/company
オンライン版 https://www.todaishimbun.org/

最新学術動向から身近な学内トピックスまで、日々東京大学から発信される旬なニュースをお届け。就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集もあります。

出版
東京大学情報本
『東大2021 東大/主義』
1,500円+税

好評発売中!
東京大学新聞年鑑2018-19
『東京大学解体新書』1,500円+税

たまご展2020 18作品 オンラインで展示



中武さんの作品「No Time」 = 本人提供

芸術専門学群洋画領域1、2年生有志の作品を展示する「たまご展2020」が昨年12月1〜31日にオンライン開催された。学生10人が水彩画や油絵など18作品をウェブサイトに公開した。この間、同日にはインスタグラム上で4人がそれぞれ一作品を描き上げる様子ライブ配信した。

同展は例年、筑波大学学祭(雙峰祭)の学術企画の一つとして実施されている。今年度は雙峰祭が中止となり、8月末頃からオンライン開催が検討され始めた。11月初めから作品を募り、同月中旬から2週間でウェブサイトに完成した。サイトには作品の写真のほか、出展者のコメントや作品の注目部分を拡大した写真も紹介されている。

有志代表の塚本京平さん(芸専2年)によれば、直接作品を見ているような臨場感と作者への親しみやすさを演出できるよう工夫したという。塚本さんは「作品の写真をオンライン掲載すると、色味や絵の具の立体感が伝わりにくくなる。一方、いつでも、どこでも鑑賞できることは利点だ。ネット経由で感想が寄せられたこともうれしかった」と話す。

中武明日香さん(同2年)は、「No Time」と題したアクリル画などを出展した。女性が椅子の背もたれを抱くようにして座り、足元にはツタが絡まっている様子を鮮やかな赤や黄緑を基調に描いた。

中武さんは「20歳を迎え絵を仕事にしているか将来の不安を感じながら描いた。時間が迫る様子を時計が、それでも体が動かないもどかしさを添え付くツタが表現している」と語った。

サイトのURLは <https://24web.wixsite.com/tamagoten2020/gallery>。(山田優寿)

ダンス部 初の映像作品公開



公開された「大切なこと」(1月27日、本紙編集室で)

ダンス部は昨年12月、創作ダンス3作品をYouTubeで公開した。例年11月中旬に行っている公演がコロナ禍で中止となり、その代わりに映像を学内外に発信することにした。

3作品はいずれも5分前後。このうち「大切なこと」は、「休みするよ」「泣くよ」などメンバー8人がそれぞれ「生きていくうえで大切なこと」「何を代しならソロで表現し、残り7人が周囲でその動きを真似するなどして引き立てる構成をとる。構成を考えた小澤早穂さん(体専3年)は小説「星の王子さま」から構想のヒントを得たという。

小説で、主人公の星の王子さまは、大人たちの思う「当たり前」に疑問を抱く。小澤さんは「大人になり、自分に正直に行動したりすることができなくなってきた。子供の頃に当たり前でできたことを忘れたくない」と語った。

3年)は他の7人の印象に残った動きを取り入れて「忘れないこと」を表現した。「7人それぞれが選んだテーマに合う自分の経験思い出しながら踊った」といい、悲しみや楽しさを表す緩急ある動きが目を引くパートになった。他の2作品は「疲れて

るまで踊る」をテーマにした「進む」と狐のお面をかけた2人のダンサーが踊る「何者」だ。どちらもしなやかな身体の動きでテーマを表現している。

ダンス部が本格的な映像作品を残すのは今回が初の試みだ。小澤さんは「映像は細かい動きを映せるが、一度きりの生の動きは見せられない。この3作品が生の公演を見たと思うきっかけになればうれしく」と語った。

作品が公開されているURLは <https://youtube.com/channel/UC01ZSLK1bV5RNru-uhvg>。(車谷都美II社会学類1年写真)

劇団筑波小劇場 ラジオドラマ公開

筑波大の演劇サークル「劇団筑波小劇場」はYouTubeでラジオドラマを公開する企画「つくしよのせいげき」を始めた。「せいげき」は声劇のこと。昨年12月16日に新作の「うちでどろろ」を公開。これに先立つ10日には、新入生歓迎企画として昨年6月に第1話を制作した「ペDESTリアンデッキ」の第2話を公開した。

同サークルは例年、筑波大学学祭(雙峰祭)を含め年に5回程度公演を行っている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で全て中止。春学期は対面での練習もできなかつ

た。10月から対面練習は再開できたが、十分な練習時間が取れなかったことも踏まえ、新たな表現方法としてラジオドラマを制作することにした。

「うちでどろろ」は金子拓未さん(資源3年)が脚本を担当した作品で、近未来が舞台。美容師の夢を諦めかけている少年が、パーソナル空間での騒動を通して、夢への向き合い方を変化させていく。

「ペDESTリアンデッキ」は筑波大の入学式当日から始まる物語だ。閉鎖空間になってしまった構内で、人々を飲み込み始めたペDESTリアンデッキからの脱出を図る新入生たちを描いており、全5話を予定している。

全話の脚本を担当した代

森岡隆書展 30年の集大成に

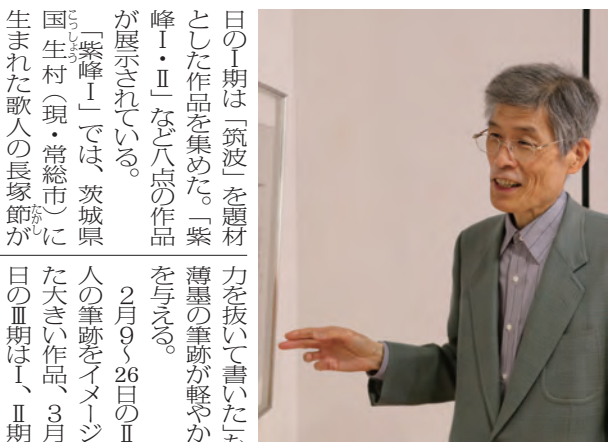
今年度(定年退職する森岡隆教授(芸術系)が、勤続30年の間に発表した作品のうち25点を展示する「筑波大学退職記念・森岡隆書展1091〜2021」が開催されている。1月13日〜3月22日に行われる芸術系ギャラリーでの学内展示に加え、筑波大芸術ポータルサイト上でも4月末まで公開される。

森岡教授は日本書道史と仮名書法が専門で、「書学と書作の融合」を書の指針としてきた。埋もれた古筆の発見や制作年代の推定など古い書跡を研究し、研究を生かした作品を発表してきた。

学内展示では会期を3期に分け、1月13日〜2月8日

「紫峰I」では、茨城県国生村(現・常総市)に生まれた歌人の長塚節が筑波山を見上げて詠んだ歌二首を、筑波山の二つの峰に見立てて配置している。

森岡教授は「夕刻に職場から眺める紫色の筑波山が美しく、長塚節が歌を詠んだ状況を想像しながら制作した」と話す。「紫峰II」は展示が困難となった。そうした中、同僚の教員にオン



森岡教授(1月27日、影撮影)による解説(1月27日、影撮影)による解説(1月27日、影撮影)による解説

ライン展示を提案され、芸術系ギャラリーとポータルサイトでの展示となった。森岡教授は、素材とする詩歌や歌人が生きた時代の書風に合わせて書を作するため、作品ごとに書風が大きく変わる。自身の書に対して「これら全ての作品を同一人物が制作したとは思えない、と言ってもらえたら本望」と話した。

展示サイトのURLは <https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/sho/morioka/>。(三橋美音、12面に関連写真)

山本美希 助教 (デザイン学)

芸術系・助教。筑波大学大学院総合科学研究科博士課程修了。博士(デザイン学)。2016年より現職。マンガ作家でもあり、近著「かしのうた」(勇気ある子猫)が(リイド社)。

子どもが「マンガ家になる」と言い出したら？

サッカー選手、バレーリーナ、プロゲーマーといった夢と同じように、小学生ならまだしも、中学生や高校生がそう発言したら「現実を見る」と言われるのではないだろうか。まして大学生も後半になって「マンガ家になる」と言いはじめ、就職活動もしなかったとなると、親はききかたがたに不安だ。しかし何を言われても決意は揺るがない。読んでくださったマンガの1コマに心ひかれた。つらい習い事が詰め込まれた毎日の僅かな隙間に、友達の家や本屋でこっそり読むマンガの物語のきらめき。隠れてむさぼるように読んでいたマンガの1コマ

「原点」GEN-TEN

小さな頃から、意固地なところがあつたかもしない。例えば、いろいろな習い事をさせてもらって感謝している一方で、そのために友達とほとんど遊ばず、ピアノ、水泳、新体操、英語、藝とに全部キラリだった。ほかに、親が読むようにと薦める本は面白くなくて興味を持てず、読むのが禁止だったマンガに心ひかれた。つらい習い事が詰め込まれた毎日の僅かな隙間に、友達の家や本屋でこっそり読むマンガの物語のきらめき。隠れてむさぼるように読んでいたマンガの1コマ



切り株に大きな穴の冬早
冬晴を光る一つに蛇口かな
何らかの木の実を丸く掃き寄せり

冬は空気が他の季節より澄むこともあり、日光を鋭くはつきりと感してしまふ。目に映る映像として知覚するもの、つまり世界はある意味光なので、私にとっては細かなものへの感覚が鋭くなる季節である。冬の晴れた日は、切り株の穴と日向のコントラストや、公園の蛇口の照り返し、木の実の艶など全てが眩しい。

(吉川劇陣II比較文化学類4年 一句目の「冬早」は、冬季晴天が続いて、雨のなごみ。)

しかし私の身近にはフリーランスで働いている人はおらず、どうやらマンガ家になれるのか、道筋が分からない。ギャラリーや書店での展示、同人誌即売会、出版社への持ち込み、ホームページやSNSなど、人の目に触れるところがあれば作品を出し続けた。そんな活動を2年ほどして、大学院生の終わりに描いたマンガが賞をもらってデビューできた。

しかし、実はそこからは大変で、作家活動のなかでセクハラに遭いフリーランスのデメリットを痛感したり、またマンガの制作ペースがうまく掴めず経済的に厳しい時期が続いたり、作家活動に次第に行き詰まりを感じようになっていった。

だからみんなもきくと大丈夫。思うまま、進んでほしい。

特集

筑波大は いま

2011年3月11日午後2時46分。三陸沖でマグニチュード(M)9.0の超巨大地震が発生し、東日本を最大震度7の揺れと大津波が襲った。東京電力福島第一原発事故が起き、放射性物質が大量に放出された。つばきでも震度6弱の揺れが観測され、筑波大の施設や設備は未曾有の被害を受けた。あれから10年。教員や学生はどのような取り組みをしてきたのか。災害への備えは十分か。節目の年に取材した。(寺尾優汰、山田優芽、北川瑠菜、比較文化学類、車谷郁美、社会学類、大和祐菜、障害科学類、中山友萌、生物学類、工藤和哉、生物学資源学類)

筑波大の被害

東日本大震災で、筑波大の施設は大きな被害を受けた。学生や教職員に死者はなかったが、施設の復旧に約50億円の費用がかかった。中央図書館では当時所蔵していた約180万冊の図書・資料・雑誌類などのうち約110万冊が書架から落下するなどして損傷した。同種の加速器としては世界有数の性能を誇っていたが、復旧はできなかった。2014年に新たな加速器が導入されたが、この間、研究に大きな支障が出た。



震災当時、中央図書館では図書資料が落下し損傷した。=本紙編集部撮影



耐震改修工事中の1C棟(1月27日、第一エリアで) =車谷郁美撮影

停電時にも利用可能な屋外非常放送設備を設置した。施設の耐震化は05年度頃から本格的になり、毎年2〜6棟ずつ行っている。12年5月時点で一般校舎の耐震化率は約73%だった。現在は1B棟、1C棟、人間系学系A棟の耐震改修工事が行われている。3棟の工事は今年3月までで、全ての校舎の耐震化が完了する。

20年の11月には安否確認システム「ANPIC」が導入された。従来のシステムよりも学生や教職員の安否確認が迅速に行えるようになった。

「震災から10年が経ち、被災者の向き合い方も変わった。支える、支えられ、関係は、共に歩んで行きたい。そう話すのは、被災地の復興を支援する学生団体「Tsukuba for 3・11」の前代表の三宅温さん(比文3年)だ。同団体は被災地での夏祭りや交流会などのイベント運営や、つばき市への避難者から震災当時の話を聞く活動をしている。三宅さんは当初、大変な経験をしてきた被災者を助けたいと思いつつも、「震災から時間が経った今、この団体にできることは何だろう」と悩んでいた。だがこの悩みは活動を続ける中で解消されてい

筑波大関係者の取り組み

震災資料の保全や被災者の支援イベント開催、避難者の健康増進など、今も震災と関連する活動を続けている筑波大関係者の取り組みを紹介する。

Tsukuba for 3・11

「震災から10年が経ち、被災者の向き合い方も変わった。支える、支えられ、関係は、共に歩んで行きたい。そう話すのは、被災地の復興を支援する学生団体「Tsukuba for 3・11」の前代表の三宅温さん(比文3年)だ。同団体は被災地での夏祭りや交流会などのイベント運営や、つばき市への避難者から震災当時の話を聞く活動をしている。三宅さんは当初、大変な経験をしてきた被災者を助けたいと思いつつも、「震災から時間が経った今、この団体にできることは何だろう」と悩んでいた。だがこの悩みは活動を続ける中で解消されてい

長谷川聖修教授

(体育系)

2014年から筑波大中央体育館で「つづくしま体操教室」を開催してきた。新型コロナウィルスの影響で昨年1月以降は体育館での活動は休止中だが、筋力アップや転倒防止につながる体操の動画を、参加者向けにウェブページで公開している。教室は毎週月曜日に開かれ、避難者約10人を含め60人ほどが参加していた。交流促進のため福島県の被災地で親しまれてきたふたば音頭などを紹介し、ペアやグループで行う体操を積極的に取り入れた。福島県双葉町から避難してきた70代の女性は「皆と会って体を動かすのが毎週の楽しみだった」と話す。長谷川教授は「共同で運動する体験は、互いの心の垣根を払うことにつながる」という。震災前から開いていた高齢者向けの転倒防止教室に避難者を受け入れ、その後、「つづくしま体操教室」に発展させた。



体操教室でふたば音頭を踊る参加者たち = 長谷川聖修教授提供

その時大学新聞は

筑波大学新聞は、震災発生直後から大学周辺の被害状況を取材し、現場の声を伝えてきた。2011年4月25日、東日本大震災を特集した筑波大学新聞(第292号)が発行された。被害状況の写真や学生への取材など、震災直後の様子が記録されている。当時編集長を務めていた西川大照さん(平成24年度社会学類卒、現信濃毎日新聞記者)に当時の話を聞いた。



西川大照さん

1人編集室で第292号を発行の準備をしていた時、揺れが襲った。棚にある物

が崩れ、停電で照明も消えた。「逃げなきゃ。その思いと同時に頭に浮かんだのは、「次の新聞(つづくしま)」という不安だった。

翌日には、カメラを持って大学と大学周辺を駆け回った。大学新聞の記者と

震災の記憶残し、伝える

して、起きた出来事を記録に残さなければならぬという使命感に突き動かされた。情報は何も得られない中、天久保公園での給水や、コンビニの品薄な状態、ガソリンスタンドの長蛇の列など、震災を物語る一瞬をカメラに収めた。できるだけ多くの写真を撮りたいという思いでいっぱいだった。

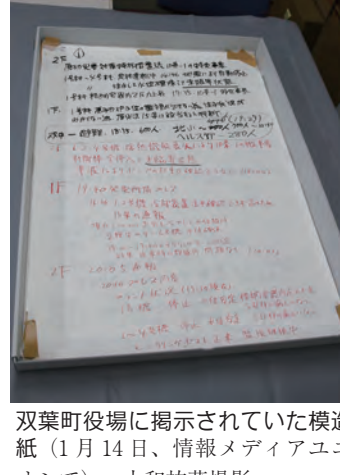
だが、震災後大学内への入構が禁止された。編集室にも入れなくなつた。自身も長野県の実家から帰省するようになり、震災から3日後、つばきは去った。その

きないため、陸上競技場で

行われた。「悲観的に見ていたわけではないが、いつもと違う風景に異様さを感じた」という。発行した2万部の新聞はほとんどなくなり、写真の提供依頼もあった。震災の記録を残し、伝えるという新聞の役割の大きさを噛み締めた。

「被災経験はその人の人生の一部に過ぎない。同じ人生を生きている人として、一緒に考えたり悩んだりしながら寄り添ってほしい」と思うようになった。三宅さんはその後、Tsukuba for 3・11が制作に携わった冊子で、この男性の経験を紹介した。

「津波によりポンプの起動確認できない(18:44)」「現在(20:00)蒸気を冷やして水位維持」……。震災当時の東京電力福島第一



双葉町役場に掲示されていた模造紙(1月14日、情報メディアユニオン) =大和祐菜撮影

原発の状況が、模造紙に克明に記されている。福島県双葉町役場に掲げられていた模造紙。外部との連絡が通じない中、町職員の間で情報を共有する役割を果たした。この模造紙はアーカイブ

「資料の価値はすぐには分からない。目の前には、単に保全するだけでなく、内容を学術的に調査・研究して検証することによって体たという。それが何であるか」ということを学術的に明らかにすること。初めて発信ができる。白井教授はこれまで「保全の10年」だったと振り返り、今後は保全活動を継続することに加え、発信することにも力を入れていきたいという。

識者に聞く

災害対策に大学はどのように向き合い、どう貢献していくべきなのか。東北大学災害科学国際研究所の佐藤健教授(自然災害科学)に聞いた。(聞き手・中山友萌香、工藤和哉)



佐藤健教授

災害科学の基礎研究や防災に関する市民への啓発活動など、災害対策で大学が果たす役割は大きい。まず、大学の基礎研究は、行政や市民の防災意識

基礎研究と防災教育で貢献を

の向上に大きく寄与する。例えば、ある地域で発生

つくば市で暮らす避難者

東日本大震災によるつくば市への避難者は今年1月時点で481人。福島第一原発事故の影響を受けた福島県からの避難者がほとんど

大学生には、災害に備える必要があり、報告がなされていないと大学の活動再開が遅れてしまう。学生には、自分の行動が早期の大学再開に繋がるということを意識してほしい。

「住民が受け入れてくれた」

谷津田さんの自宅は地震による損壊はなく、そのま

谷津田さんの自宅は地震による損壊はなく、そのまの状態で残っている。次の住み家は長年暮らした家が良い。だが、自宅から車で10分、避難先は福島の山間部。福島の山間部は、避難先として選ばれた。谷津田さんは、避難先として選ばれた。谷津田さんは、避難先として選ばれた。

つくば市を襲う災害

つくば市がハザードマップはどの程度起きている。市内では2012年、北条地区で中学生が亡くなる

一方、筑波キャンパスは、災害による直接的被害が少なくても、被災後に影響があった方が備蓄になる「日常備蓄」を

「日常備蓄」を

出る恐れもある。例えば、常備蓄だ。一人暮らしの場合、備蓄を自ら用意

Hello! 先端研究



征矢英昭教授

統合失調症は精神疾患の一つだ。征矢英昭教授(体育系)らの研究チームは、モデルマウスを使った実験から、発育期に軽い運動をさせることで

軽運動で統合失調症を予防

統合失調症は精神疾患の一つだ。征矢英昭教授(体育系)らの研究チームは、モデルマウスを使った実験から、発育期に軽い運動をさせることで

質の機能が低下していることが知られている。征矢教授らは、ヨガやジョギングなどの軽い運動でも前頭皮質の機能が上がることを確認して

今回の研究では、PCPと呼ばれる薬物を妊娠マウスを円柱状の水槽

(筑波大の資料から作成)

週に5回、1回30分のトレッドミル走を4週間したマウス

	薬物投与マウス	軽運動をしたマウス
行動量の異常な増加	起きた	起きなかった
抵抗せずに水に浮かぶ時間	増えた	増えなかった
新しい物体を見た後の探索行動時間	増えなかった	増えた

「音楽で日本を変えたい」と思っている。練習に通っていました。練習のTシャツを汗でびしょびしょしながら

本人提供) 比較文化学類卒、写真は本人提供)

手紙

大学まで自転車です。分。なるべく大学に近い所に住んできりぎりまで

筑波大に入学したきっかけは、憧れのバンドマンの母校だったからで

話合う日々。仲間たちと協力して作り上げた作品がお客さんに届いたとき



NHK 松江放送局アナウンサー 藤原 陸遊 さん

「音楽で日本を変えたい」と思っている。練習に通っていました。練習のTシャツを汗でびしょびしょしながら

話合う日々。仲間たちと協力して作り上げた作品がお客さんに届いたとき

全日本大学選手権

男子準優勝 女子3位に輝く



ゴールを狙う山口(左) = CSPark 提供

大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月7〜13日、国立代々木競技場第二体育館(東京都渋谷区)などで開催された。筑波大は男子が準優勝、女子が3位に輝いた。井上宗一郎(体育3年)が男子の、渡邊悠(同4年)が女子の優秀選手賞に、山口颯斗(同4年)が男子の敢闘賞に選ばれた。

(加藤優花=国際総合学類3年)

バスケット

男子

11日の専修大との準々決勝で接戦を制した。

勝、12日の大東文化大との準決勝は、ともに延長戦へ突入。山口らの粘り強い攻撃で接戦を制した。

13日の決勝では東海大と対戦。序盤は先行する相手に追いつけず、点差を縮める場面もあったが、堅い

ディフェンスを破れず、57-75で敗北し、インカレ連覇を逃した。

第1クォーター、筑波大は開始早々相手にリードを許したが、小林優(同1年)や山口らが得点を重ね、10-13と食い下がった。第2クォーターでは二上輝(同3年)や木村らがオフエンスリバウンドで波状攻撃を掛けるも、相手に立て続けにシュートを決められ、24-36とリードを広げられた。

後半は、横地聖真(同1年)の連続3Pシュートや井上のリバウンドシュートで反撃。第4クォーターでは野本大智(同4年)や山口などのシュートで追い上げを図ったが、相手のディフェンスが手堅く、57-75

準優勝も「来年につながるプレー」

練習中保護者が長時間球場に拘束される「少年野球への課題」

長や発育の状況には対応しづらい「少年野球」で肘や肩などのケガを招く原因となってきたと川村准教授は指摘する。パラポリックスローを練習に取り入れれば、そうした心配は無用だ。

川村准教授は筑波大大学院で野球コーチング論研究(野球研)を主宰し、「スポーツ現場と研究をつなぐ」をテーマに、少年野球からプロ野球まで、段階に応じた野球の指導方法の体系化に取り組んでいる。

そうした中でも、特に力を注いでいるのが、少年野球界には他にも練習量が少なく、練習中に指導者の罵声が飛び交い子供たちが萎縮する

女子

準々決勝までは、対戦相手に10点以上の差をつける勝利を重ねた。11日の準決勝では、インカレ4連覇を狙う東京医療保健大戦に挑んだが、リバウンドで主導権を握り、次々と正確なシュートを決める相手に48-81で完敗した。

習日の3位決定戦では若狹大と対戦した。試合開始直後は、互いに点の取り合いが続いたが、渡邊の速攻などで筑波大が



優勝した小牧 = インカレスプリント実行委員会提供

須塩原市)で開催され、男子の部で小牧弘季(資源4年)が優勝した。小牧は昨年10月に行われたロングディスタンス部門に続き、2種目の優勝となった。

オリエンテーリングは、日本学生選手権のスプリント部門が昨年12月6日に那須野が原公園(栃木県那

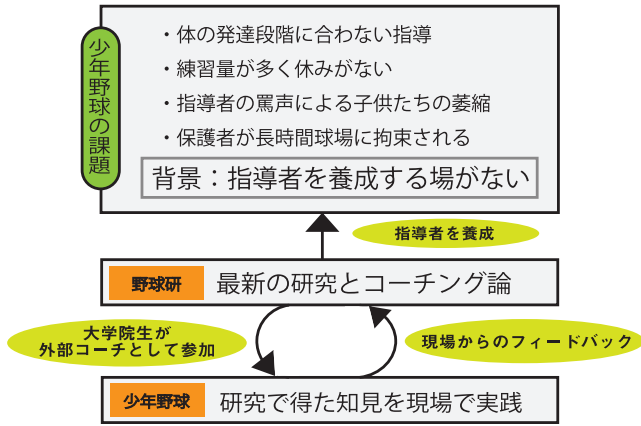
特任助教)は「特に後半からのリバウンド、ディフェンスで相手の攻撃を封じていた。大会中、4年生が後輩に頑張りを見せることができていた」と話した。

小川やテブによる仕切りがあり、正確なコース取りが求められる。小牧はスタート直後3位だったものの、その後は順位を維持し、一度も逆転を許さず、2位を40秒引き離れた13分09秒で優勝に輝いた。

小牧は「ルート取りに悩まされる場面もあったが、結果としてロングに引き続いて優勝できてうれしい。3月の大学生活最後のインカレではリレー部門もあるので、チームとして優勝を狙えるよう仲間と切磋琢磨していきたい」と語った。

(田所涼)

野球研の取り組み



(取材を基に作成)

野球



川村卓准教授

ピッチャーのコントロールを向上させるとして、少年野球界の注目を集めている練習方法が「パラポリックスロー」だ。投げ手から離れた所に置いたかごなどに向かって、ふわりとボールを投げ入れる。パラポリックスとは「放物線のこと」で、ボールを山なりの放物線を描くように投げることから名付けられた。

本場にそれはいいかと不安にもなるが、考案した筑波大の川村卓准教授(体育系)が小中学生を対象に取り組んでもらったところ、その効果が実証された。無意識のうちに目標までの距離を判断し、投げる力を調整する能力が身につくので、コントロール力も向上すると考えられるのだ。

野球界ではこれまで、コントロールの向上には、ひたすら投球練習をすることが有効だと考えられてきた。しかし、子供たちの成長や発育の状況には対応しづらい「少年野球」で肘や肩などのケガを招く原因となってきたと川村准教授は指摘する。パラポリックスローを練習に取り入れれば、そうした心配は無用だ。

川村准教授は筑波大大学院で野球コーチング論研究(野球研)を主宰し、「スポーツ現場と研究をつなぐ」をテーマに、少年野球からプロ野球まで、段階に応じた野球の指導方法の体系化に取り組んでいる。

そうした中でも、特に力を注いでいるのが、少年野球界には他にも練習量が少なく、練習中に指導者の罵声が飛び交い子供たちが萎縮する

「指導者の養成が必要」

チームのコーチを務める見地に頼りがいがある。延べもさん(令和元年度)は「少年野球では、高校生と同じ練習に取り組みむことが起きがちだ。そこで、子供の年齢や体の成長などに合わせた指導を行うようにした。子供たちの体にかかる負担が減り、けがを防止できた」と話す。

また、川村監督は8年ごろから指導者のための講習会を年間約30回開催してきた。ここでは「パラポリックスロー」など最新の研究成果が得られ、野球研の現場での実践に基づいた指導法を提案している。

特に12月から2月は野球

「少年野球への挑戦」で、少年野球の課題解決に向けて奮闘する筑波大関係者の挑戦を、独自の視点で追いかけてます。



少年野球への挑戦

最終戦引き分けて終える

サッカー

関東大学リーグ戦

【RKUフットボールフィールド(茨城県龍ケ崎市)で飯田健介(社会学類4年、写真も)。12面に関連写真】昨年7月に始まった関東大学リーグ戦が同12月31日に閉幕した。筑波大は今季、年間を通して上位に進出できず、12チーム中10位でリーグ戦を終えた。年間成績は6勝6分10敗。筑波大は大きめの最終戦(第16節延期分)で、12月の戦績が8戦6勝1分1敗で迎えた。

後半、序盤は拮抗したが、57分に左サイドから相手に上げられたクロスがそのままゴールに入り、同点に引き分けられた。

後半、序盤は拮抗したが、57分に左サイドから相手に上げられたクロスがそのままゴールに入り、同点に引き分けられた。

先制点を決めた和田(昨年12月31日、RKUフットボールフィールド)



先制点を決めた和田(昨年12月31日、RKUフットボールフィールド)

敗と好調だった法政大と対戦。一時は逆転を許したが、終盤に追いつき2-2で引き分けた。

28分、相手陣内でボールを奪うと、カウターで攻撃を任せ、生地慶充(体育4年)がペナルティーエリア内でシュートを放つ。これは相手ディフェンスに防がれたが、こぼれ球を和田(同2年)が流し込み先制。前半を1-0で折り返した。

後半、序盤は拮抗したが、57分に左サイドから相手に上げられたクロスがそのままゴールに入り、同点に引き分けられた。

主将の知久航介(同4年)は「逆転されてはいけない場面が失点する勝負弱さが出てしまった一方で、粘り強く戦って最後に点を取ることができた。今季の筑波大を象徴するような試合展開開いたと思う」と話した。

小井土正亮監督(体育系・助教)は「途中から入った選手が流れを変えてくれた。負けたままで終わらさず、後半に巻き返すことができたことは、来年度への希望になるはず。この試合を今後の選手の糧にしてほしい」と話した。

れた。筑波大はその後リズムを崩し、67分にコーナーキックから再び失点した。

逆転を許し、追い込まれた筑波大だったが、途中出場した選手が躍動し主導権を握り始めた。79分、途中出場の瀬良俊太(同1年)がスルーパスでチャンスを作り、最後は同じく途中出場の森海渡(同2年)がこぼれ球を押し込んで、同点に追いついた。そのまま試合は終了し、最終戦を引き分けで終えた。



栄光の4年間 新しい舞台へ

旅立つアスリート

スポーツ強豪校として名を馳せる筑波大。今年も活躍を続けた4年生たちがつづいて去る。その中でも大きな存在を感じた4人の選手に、これまでの競技生活と今後の目標を聞いた。(遠子内早紀)教育実践3年 西村大祐、車谷郁美、加藤優花)

■剣道

皇子啓太(体専4年)



一本勝ちし、日本の優勝に大きく貢献した。大学4年間で多くの勝利を経験したが、勝った時よりも負けた時の方が印象に残っているという。特に、3年時に大将として臨んだ全日本学生優勝大会で、自身二本負けで優勝を逃したことは一生忘れられないと語る。「3年生で大将を任せてもらっていたのに、自分のせいで逆負けとなって、4年生の目標や支えてきた保護者の思いを断つことになりました。心を折れかけ、何もしたくない時期がしばらく続いた。転機の一つとなったのは、19年11月の主将就任だ。18年には日本代表として世界選手権の団体戦にも出場。決勝では次鋒として

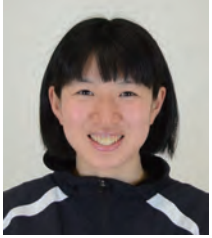
一本勝ちし、日本の優勝に大きく貢献した。大学4年間で多くの勝利を経験したが、勝った時よりも負けた時の方が印象に残っているという。特に、3年時に大将として臨んだ全日本学生優勝大会で、自身二本負けで優勝を逃したことは一生忘れられないと語る。「3年生で大将を任せてもらっていたのに、自分のせいで逆負けとなって、4年生の目標や支えてきた保護者の思いを断つことになりました。心を折れかけ、何もしたくない時期がしばらく続いた。転機の一つとなったのは、19年11月の主将就任だ。18年には日本代表として世界選手権の団体戦にも出場。決勝では次鋒として

「夢は全日本3連覇」

高校時代に団体戦の主要大会で4冠を達成し、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)では個人優勝を任せてもらっていた。2019年には「入学時から目標にしていた。全日本学生選手権で優勝し、個人戦で学生日本一に輝いた。18年には日本代表として世界選手権の団体戦にも出場。決勝では次鋒として

■女子バスケ

佐藤由璃果(体専4年)



豊富な運動量を生かした攻撃が得意。速攻や速くから打つシュートに加え、リバウンドや相手の動きを抑えたディフェンスで、攻守にわたりチームを支える。高校2年時、全日本大学選手権(インカレ)優勝を

■女子バドミントン

香山未帆(体専4年)



ながらも、圧倒的な強さで2連覇を達成した。改めてインカレ団体戦6連覇を狙っていた4年時には、新型コロナウイルス感染症拡大で、リーグ戦もインカレも中止になった。唯一出場した公式戦が昨年12月の全日本総合選手権だ。1回戦で敗退したが、「3年時は来たシャトルをただ返すことを崩す攻撃的なプレーが持てなかった。今回は相手はどこに打ってくるか予測し、自分から対処でき

力強い打球で相手の体勢を崩す攻撃的なプレーが持てなかった。今回は相手はどこに打ってくるか予測し、自分から対処でき

史上初のインカレ5連覇に貢献

「課題に対して解決策を考える」姿勢で戦った4年間だった。1年時の夏に左足を捻挫したことでも、「自分がどううけがをしやすいか」を考え、けがをしやす部位を強化するトレーニングやストレッチにより力を入れるようになった。これにより、けがで練習を休むことが減り、大学4年間で通した好成績につながった。大学生活で頑張ったことは「自分自身を理解すること」振り返る。卒業後は日本ユニシスで競技を続ける。「新しい環境での自分の成長を享受したい」と微笑む。「日本代表になりたい」という夢に向かって、これからも歩み続ける。(写真は本人提供)

豊富な運動量で攻守支える

高校2年時、全日本大学選手権(インカレ)優勝を

卒業後はWリーグに挑戦する。「今のままではブ

代表落ちバネに国内外で活躍

仲間からのボールを確実にド(イタリア・ナポリ)で勝を果した。国内外で結果を残してきたが、活躍の裏には2年時の悔しい経験があった。2018年度の日本代表候補チームを引張った。新型コロナウイルスの影響で長時間のミーティングができなかったため、帰宅後に練習の動画を観直し、気になる選手に個別にアドバイスを送るなど、コミュニケーションを

仲間からのボールを確実にド(イタリア・ナポリ)で勝を果した。国内外で結果を残してきたが、活躍の裏には2年時の悔しい経験があった。2018年度の日本代表候補チームを引張った。新型コロナウイルスの影響で長時間のミーティングができなかったため、帰宅後に練習の動画を観直し、気になる選手に個別にアドバイスを送るなど、コミュニケーションを

仲間からのボールを確実にド(イタリア・ナポリ)で勝を果した。国内外で結果を残してきたが、活躍の裏には2年時の悔しい経験があった。2018年度の日本代表候補チームを引張った。新型コロナウイルスの影響で長時間のミーティングができなかったため、帰宅後に練習の動画を観直し、気になる選手に個別にアドバイスを送るなど、コミュニケーションを



仁熊秀斗(体専4年)

仲間からのボールを確実にド(イタリア・ナポリ)で勝を果した。国内外で結果を残してきたが、活躍の裏には2年時の悔しい経験があった。2018年度の日本代表候補チームを引張った。新型コロナウイルスの影響で長時間のミーティングができなかったため、帰宅後に練習の動画を観直し、気になる選手に個別にアドバイスを送るなど、コミュニケーションを

スポーツの顔

体操

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)のあん馬で2連覇を果たした実績を引っ掛け、「中学時代から憧れていた筑波大に進学。昨年12月の全日本選手権では種目別あん馬で5位に入賞するなど、着実に力を蓄けている。体操競技部の中心選手として、一層の活躍が期待される存在だ。一番の持味は、大舞台でも安定した演技を見せる勝負強さだ。



インターハイ あん馬2連覇達成

長崎 柁人 (体専2年)

選手権Aクラスのあん馬で2位に輝いた。この頃から、「体操が好き」という気持ちで、勝ちたいという気持ちに変わって

「好き」から「勝ちたい」に

川千翔(文学類1年、写真は本人提供)

日本の正月味わって

留学生らに「のし餅」ふるまう

日本の正月文化を味わってもらおうと留学生に餅を配布する「Furumai Mochi」振舞い餅が1月7、8日、1A棟で開かれた。グローバル・コミュニケーション機構の主催で、切り分けた紅白ののし餅二つを留学生57人を含む計125人の学生と教職員らが受け取った。

餅と一緒に配布された冊「員おすめの餅の食べ方」では、門松やしめ縄などの装飾、羽根突きや福笑いなどの正月遊びを英語で解説。大根おろしと納豆を和えたものをかけるなど、職



餅を受け取る学生(右)(1月7日、1A棟) = 小菊日怜媛撮影

中国の餅しか食べたことが無く、日本にはたくさん餅のレシピがあることに驚いた。さまざまな日本文化を知ることで、勉強になった」と話した。

同機構は昨年1月、留学生に餅つきと書道体験してもらったイベントを開催したが、今年は新型コロナウイルス感染症防止のため、体験イベントは取り止めた。2日間で五つの時間帯を設けて来場者を分散し、検温や手指消毒も実施した。

留学生の声

ベトナム

グエン・ゴク・ラン・チ (教育学類)

「大好きな日本とベトナムの架け橋になる。その目標を胸に、学業から課外活動、遊びまで全てに全力投球する。」

ベトナム語のほか、日本語や中国語など4言語を操る。国ごとの学校教育の違いや言語教育などに関心があり、昨年4月に教育学類へ入学した。10歳から日本語を独学で学び始めた。ベトナムで人気だった日本のテレビドラマ「花より男子」を通して、アイドルグループ「嵐」に出会ったことがきっかけだ。嵐ファンになり、ファン同士の交流会などに参加した。自然と「いつか日本に行きたい」との想いが芽生えた。



とも言える嵐ファンの少女が立派に成長した姿は、とてもまぶしかった。

2019年春に来日し、東京外国語大で日本語に関する基礎知識と日本語を1年間学んだ。その後、教育学を中心に横断的に学べる筑波大に入学した。だが新型コロナウイルスの影響で、念願のキャンパスライフは思い描いた通りにはならなかった。しかし「貴重な時間を無駄にしたくない」とさまざまな活動に挑む。

今は留学生生活を思いきり楽しみなが、教育学に関する知識を幅広く吸収したいという。将来は、日本留学を目指すベトナムの若者をサポートし、日本とベトナムをつなぐ存在になりたい。両国の未来を見つめる瞳は、輝きに満ちあふれている。(三橋美音II教育学類1年、写真は本人提供)

日本とベトナムつなぐ架け橋に

語を日本の高校生に紹介する交流活動などに取り組む。

の時だった。在ホーチミン日本総領事館で開かれたイベントで、かつて嵐ファン交流会で意気投合した女性に再会した。女性はイベントの司会を務めており、流暢な日本語を話していた。日本への憧れを語り合った同志

「大好きな日本とベトナムの架け橋になる。その目標を胸に、学業から課外活動、遊びまで全てに全力投球する。」

ベトナム語のほか、日本語や中国語など4言語を操る。国ごとの学校教育の違いや言語教育などに関心があり、昨年4月に教育学類へ入学した。10歳から日本語を独学で学び始めた。ベトナムで人気だった日本のテレビドラマ「花より男子」を通して、アイドルグループ「嵐」に出会ったことがきっかけだ。嵐ファンになり、ファン同士の交流会などに参加した。自然と「いつか日本に行きたい」との想いが芽生えた。

とも言える嵐ファンの少女が立派に成長した姿は、とてもまぶしかった。「やっぱり日本に行きたい」。留学を決意した瞬間だった。すべ日本語学校に通いはじめ、毎日欠かさず机に向かった。高校の日本文化部にも入り、現地で開かれた日本語の勉強会に参加した。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

25年間の展示ウェブで 45点の名品を公開

筑波大附属図書館はこれまで行われた展示会の資料をウェブサイトで公開する企画展「もう一度見たい名品」を昨年12月14日から始めた。サイトでは展示会ごとに注目の資料を紹介しており、展示会の当時のサイトから、図録や資料の所蔵情報をたどることができる。(及川千翔 北川瑞菜)

附属図書館は1995年「江戸時代中期に書写されたから25年間にわたり、所蔵源氏物語全53冊や南総里見八犬伝9巻98巻などが取り上げられ、それぞれ写真と解説文が掲載されている。特別展は学内の教員組織、企画展は図書館職員が企画する。

今回の企画展では、2004年以降の展示会の資料を数点ずつ紹介した。また、「特別展・企画展の軌跡」では全27回の概要が公開されている。各展示会の内容や図書館職員が作る

当初は別の特別展を開催することが決まっていたが、昨年6月に新型コロナウイルスの影響で延期が決まされた。だが、今年度は展示会の開始から四半世紀の節目のため、展示会の歴史を振り返る企画展が7月に発表された。サイトの開設準備は9月中旬から2カ月かけて行われた。

情報企画課の大久保明美主任によれば、過去の展示から45点を紹介した「もう一度見たい名品」では、貴重

「特別展・企画展の軌跡」では全27回の概要が公開されている。各展示会の内容や図書館職員が作る

ウェブ展示の特設サイト(1月27日、編集室) = 及川千翔撮影



受け取った食料を袋に詰める学生(左)(1月22日、グローバルヴィレッジ)

企業などが20ト寄付 学生に食料品配布

2999人受け取る

筑波大は1月22日、在学生を対象に、教職員や地元企業、農家などから寄附された食料品約20トを無償で配布した。コロナ禍でアルバイト収入や仕送りが減少した学生を支援する狙いで、グローバルヴィレッジなどが会場になった。事業開発推進室によれば周辺には最大時で約4000人の列ができた。2999人の学生が米や野菜、カップ麺などを受け取った。

(寺尾優汰II比較文化学類1年、写真も。12面に関連写真)

筑波大が昨年12月に実施した調査で、アルバイト収入が減ったと回答した学生が約7割に達したことから、企画された。地元企業社長らで構成する「学長を囲む会」、筑波大の教職員やJA、ロータリークラブなどが

当初は各家庭に余っているカップ麺などの食料品を集め、数個ずつ学生に配布する予定だった。だが、同室の発表によると、企業など60団体、匿名を含む教職員ら個人350人以上から、米7ト、カップ麺2万4000個、飲料1万1000本、缶詰2300個、キャベツ540玉、卵12000パックなどが集まった。

このうち米や飲料など約8トの食料品を提供した方クヤス(東京都北区)の佐藤順一代表取締役社長(昭

和55年度社会学類卒)は、大学に「恩返しをしたい」と協力を決めた。「学生は遠慮なく支援を求めるとき。喜ぶ姿を見られてうれしい」と、今後の支援も惜しまない考えを示した。

また、カスミ(つくば市西大橋)からは菓子や缶詰など、JA全農いばらき(茨城県茨城町)からは白菜500個などが寄せられた。

集まった食料品は有志の運動部員らが荷下ろしや運搬をしたほか、学生ボランティア約70人が会場誘導や配布作業を手伝った。食料を受け取った留学生の曾川子(資源P1年)は「一時短営業でバイト収入が減った。母国の家族とも会えず不安な中、大学が学生のことを考えてくれていると感じ、温かい気持ちになった」と話した。

同室の担当者は「食料配布などの資金に頼らない支援を模索した結果だった。たくさん寄付が集まり、ありがたい」と話した。

性的少数者への取り組み

UDAがシンポジウム

性的少数者に関する大学の取り組みを考えるシンポジウム「大学とセクシュアル・マイノリティ」が昨年12月11日に、オンラインで開催された。大学間で支援内容の共有や勉強会の開催などをする大学ダイバーシティ・アライアンス(UDA)と性的少数者の情報

その傍ら、ベトナム人向けに日本の情報を紹介するウェブ雑誌のライターの、オンライン日本語講座のアルバイトも掛け持つ。「筑波大学アカペラサークルDooop」と、社会問題や自身の考えを講演する「TEDxUTSUKUBA」にも所属中だ。休日は友人とランチや筑波山観光に出掛け、息抜きも欠かさない。スケジュール帳は常に予定でいっぱいだ。

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

2019年春に来日し、東京外国語大で日本語に関する基礎知識と日本語を1年間学んだ。その後、教育学を中心に横断的に学べる筑波大に入学した。だが新型コロナウイルスの影響で、念願のキャンパスライフは思い描いた通りにはならなかった。しかし「貴重な時間を無駄にしたくない」とさまざまな活動に挑む。

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

重なる資料の中から何を残すか苦労したという。紹介した資料の解説文は過去の図録を参考に作成したが、必要に応じて新たに書き下ろした。

また、「茨城留学生親善大使」も務める。親善大使は公益財団法人「茨城国際協力協会」が、留学生と県民の交流を促進する狙いで毎年公募しており、今年度は44人が任命された。その一人として、ベトナムの文化や言語について、

学生団体「継続の危機」

新型コロナ感染拡大から1年 影響深刻



10月に行われた全日本大学選手権大会に出場した磯野さん(左) = 漕艇部提供

【一面参照】新型コロナウイルスの感染拡大から約1年経った今、課外活動に深刻な影響が出ている。昨年10月より再開した団体での課外活動も、今年1月には全面的な自粛となった。こうした中、継続の危機にひんする団体や、引継ぎに苦悩する団体も少なくない。窮地に立たされた学生団体の現状を追った。(中山友明香 生物学類1年、北川理菜 車谷郁美)

2年間新入部員ゼロ 昨年は3日のみ活動

「筑波能・狂言研究会」は1946年、東京文理科大学に創立された「大塚能狂言研究会」が前身の歴史ある団体だ。80近く続いてきた同会だが、コロナ禍で継続が難しくなっている。同会の会員数は7人(学

群生3人・大学院生4人)で、昨年度は新入部員が1人もいなかった。今年度は新入生歓迎活動(新歓)に力を入れようと意気込んでいた矢先に新型コロナウイルスの感染が拡大。会員同士で集ま

れなくなった。思うように活動できない中でも、部員を増やそうと12月に対面新歓を企画した。ゾーシャルネットワーキングサービス(SNS)で呼びかけたが参加者はおらず、2年連続で新入部員を迎えられなかった。活動の軸だった学園祭や新歓での公演は全て中止となり、4月以降の活動日数は新歓準備をした3日だけだ。会長の西村生さん(体専4年)は「新歓がうまくいかなかった上に公演も無く、会員のやる気が失われてしまった」と話す。

来年度は、大学院生が4人になり、学群生は1人だけになる。西村さんは「通常は学群生が会長を務めるが、人手不足で会長を引き継ぐ後輩がいなくて危機感を募らせる。西村さんは筑波大大学院に進学予定で、後継者が見つかるまで会長を続けるという。」

漕艇部練習で入部2カ月で部長に

「筑波大学漕艇部」は約4カ月間水での練習ができなかった。普段は土浦市の霞ヶ浦で練習しているが、新型コロナウイルスの影響で4月から学外での課外活動が制限されたからだ。水上練

習は8月に再開したが、12月に再び中止となった。同部はボートの漕ぎ手となる選手不足に悩んでいる。2年前は13人いたが、現在は今年度入部した1年生1人を含めて4人しかいない。2月末に1年生2人が新たに選手として入部予定だが、2年前の半数にとどまる。

選手不足は、練習の質にも影響を与えている。水上スポーツである漕艇は、練習中の事故を防ぐために着視役が1人必要だ。同部は部員同士が交代で着視役をするため、部員数が少ないと1人当たりの練習量が減り、効率が悪くなる。

同部では、例年9月に代替わりがあり、学群3年生が部長に就任してきた。だが、今年度は学群2・3年生がわずか、昨年7月に入部したばかりの磯野祥さん(体専1年)が部長を務めることになった。

詐欺メール被害防ぐには

巧妙化する手口「判断力磨いて」

【一面参照】筑波大関係者にはフィッシング(詐欺)メールが日々送られてくる。フィッシングメールの手口や目的にはどのようなものがあるのか。また、被害の予防策はあるのか。学術情報メディアセンター長の亀山啓輔教授(シス情系)に聞いた。(及川千翔、北川理菜)

偽のホームページに接続させたりする方法で、受信者のアカウント情報(IDやパスワード)やクレジットカード番号などの個人情報情報を不正に取得・利用しようとする。

具体的には、宅配便の不在通知を装ったものや、通

販サイトやクレジットカードなどのサービスで「不正アクセス」や「購入確認・キャンセル」をかけるものなどが挙げられる。

同センター長の亀山教授によると、フィッシングメールの手口は近年、巧妙化している。

まずは、差出人がアクセスを要求しているURLが本物かどうかを確認する必要がある。だが、最近ではこの方法で見分けることが難しくなっている。メールでは発信者アドレスを簡単

今年度で歯科診療廃止

保健管理センター 受診者減少が影響

筑波大は1月5日、保健管理センターでの歯科診療を今年度限りで廃止すると発表した。同センターは、水、金曜日の午前中だけ歯科診療を受け付けていた。

同センターが行うのは応急治療だけで、必要性が薄れてきたことが歯科診療廃止の主な理由だという。

同センターの坂本透所長は「同センターの予算削減により、運営も変革を迫られるようになった。さまざまな改革案から検討された結果」と話し、利用者の理解を求めた。(寺尾優太)

同センターの担当者は「発達障害に、関心の無い人」のように啓発を進めるのが課題だった。可愛いキャラクターがデザインされた付箋を配布することで、発達障害にポジティブなイメージを持ってもらいたい」と話した。(半田美乃理 社会学類1年)



馬術部の朝は早い。まだ夜空に星が残る1月中旬の午前6時、続々と部員たちが筑波キャンパスの馬場に集まる。馬に話しかける部員からは笑みがこぼれ、外の寒さを忘れさせる、暖かな雰囲気

に包まれていた。部員は16人。馬の世話と馬術の練習が活動の両輪だ。

馬術の種目には、障害物を飛び越える技術と速さを競う「障害馬術」や、演技の正確さや美しさを再開する必要がある。

亀山教授は「センターでは不正なメールを検出・遮断するフィルタを運用しているが、全てを防げるわけではないので、最終的には利用者自身が不正メールの真偽を判断する必要がある。利用者の皆さんには判断力を磨き、注意を怠らな

いしてほしい」と話した。

馬術部の練習が活動の両輪だ。



巧みに馬をコントロールする部員(1月8日、筑波大馬場で)

馬術部

馬と部員共に日々成長

馬術部は16人。馬の世話と馬術の練習が活動の両輪だ。

馬術の種目には、障害物を飛び越える技術と速さを競う「障害馬術」や、演技の正確さや美しさを再開する必要がある。

亀山教授は「センターでは不正なメールを検出・遮断するフィルタを運用しているが、全てを防げるわけではないので、最終的には利用者自身が不正メールの真偽を判断する必要がある。利用者の皆さんには判断力を磨き、注意を怠らな

いしてほしい」と話した。

発達障害 付箋で啓発 教職員らに配布



配布している5色付箋と正方形の付箋=DACセンター提供

た付箋を作り、教職員らへの配布を始めた。同センターは2019年4月、「ヒトはそれを『発達障害』と名づけた」と題した漫画を職員が作成。発達障害の特徴や対処方法を、登場キャラクターの動物たちが解説する。ツイッターなどで公開したところ大きな反響があった。付箋には、漫画に登場する注意欠陥・多動症(ADHD)の「トリさん」や学習障害(LD)の「サカナちゃん」などが描かれ、漫画を閲覧できるQRコードも記した。長方形で5色セットの付箋と正方形で白色の付箋を各3000個作り、教員や各エリア支援室の職員などに配布している。学生への配布も検討中だ。

同センターの担当者は「発達障害に、関心の無い人」のように啓発を進めるのが課題だった。可愛いキャラクターがデザインされた付箋を配布することで、発達障害にポジティブなイメージを持ってもらいたい」と話した。(半田美乃理 社会学類1年)

全日本学生馬術大会に出場するなど実績を残している。関東地区の大会での上位入賞や全国大会への出場を目標に、練習に励んでいる。

筑波大の馬術部では、10頭中6頭が馬術用に自ら再調教した引退競走馬

馬術部は16人。馬の世話と馬術の練習が活動の両輪だ。

馬術の種目には、障害物を飛び越える技術と速さを競う「障害馬術」や、演技の正確さや美しさを再開する必要がある。

亀山教授は「センターでは不正なメールを検出・遮断するフィルタを運用しているが、全てを防げるわけではないので、最終的には利用者自身が不正メールの真偽を判断する必要がある。利用者の皆さんには判断力を磨き、注意を怠らな

いしてほしい」と話した。

馬術部の練習が活動の両輪だ。

馬術の種目には、障害物を飛び越える技術と速さを競う「障害馬術」や、演技の正確さや美しさを再開する必要がある。

亀山教授は「センターでは不正なメールを検出・遮断するフィルタを運用しているが、全てを防げるわけではないので、最終的には利用者自身が不正メールの真偽を判断する必要がある。利用者の皆さんには判断力を磨き、注意を怠らな

いほしい」と話した。

Who's Who?

大学院生ユーチューバー

立野ヒロユキ さん (物理専攻2年)



ユーチューバーとして活躍する立野さん=本人提供

「どうもヒロです。筑波大やつくば市を題材に、さまざまな動画を投稿する「大学院生ユーチューバー」。チャンネル登録者数は3000人を数え、投稿動画の再生回数は合計で40万回を超える。「筑波大生が高校生の頃に使用していた参考書を紹介」「筑波大生が思うつくば市の良いところTOP5」——などが人気だ。

昨年3月に投稿した動画「ドッキリ」筑波大学とアマゾンの写真を見分けるクイズ、全部筑波大学にしたら、弟発狂した。動画の最後

「多々の人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。

群馬県で生まれ育った日系ブラジル人。中学の頃からユーチューブをのぞいてきた。夢中になったのは、チャンネル登録者数1億人超の世界的なユーチューバー「ビューティパイ」の動画。視聴者を引きつける巧みな編集テクニックに魅了された。

視聴者からのコメント 原動力に「動画で誰かの役に立ちたい」

「多くの人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。」

「多々の人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。」

「多々の人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。」

「多々の人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。」

「多々の人に楽しませていることがうれしかった。自分の動画が初めて多くの人に受け入れられた瞬間だった。もっと多くの人に見てもらいたい。投稿頻度を不定期から週1回に増やした。」

初の共通テスト 実施



共通テストを受ける受験生ら (1月16日、3A棟で) = 西村大祐撮影

2面へ

学内総合

森岡隆教授が書展開催



今年度で定年退職する森岡教授と作品「紫峰I」(1月27日、芸術系ギャラリーで) = 天野隼太撮影

5面へ

学芸

サッカー 関東大学リーグ



シュートを放つ瀬良(左)(昨年12月31日、RKUフットボールフィールドで) = 飯田健介撮影

8面へ

スポーツ

筑波大生に食料品を配布



寄付された食料品の一部 (1月22日、平砂共用棟で) = 寺尾優汰撮影

10面へ

学生生活

編集後記

未曾有の被害となった東日本大震災から今年3月で10年を迎えます。今号では震災記録の保全を続けてきた白井哲哉教授(図情学系)取材しました(6面)。

編集・発行

筑波大学新聞編集委員会
 委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学
 副委員長 佐藤勲(学生部長) 委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学

次号は

4月5日(月)

発行予定です

未曽有の被害となった東日本大震災から今年3月で10年を迎えます。今号では震災記録の保全を続けてきた白井哲哉教授(図情学系)取材しました(6面)。

筑波大学新聞編集委員会
 委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学
 副委員長 佐藤勲(学生部長) 委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版